



**屋久島町
永田へき地出張診療所**

**鹿児島県30期
堂嶽 洋一**

屋久島の位置

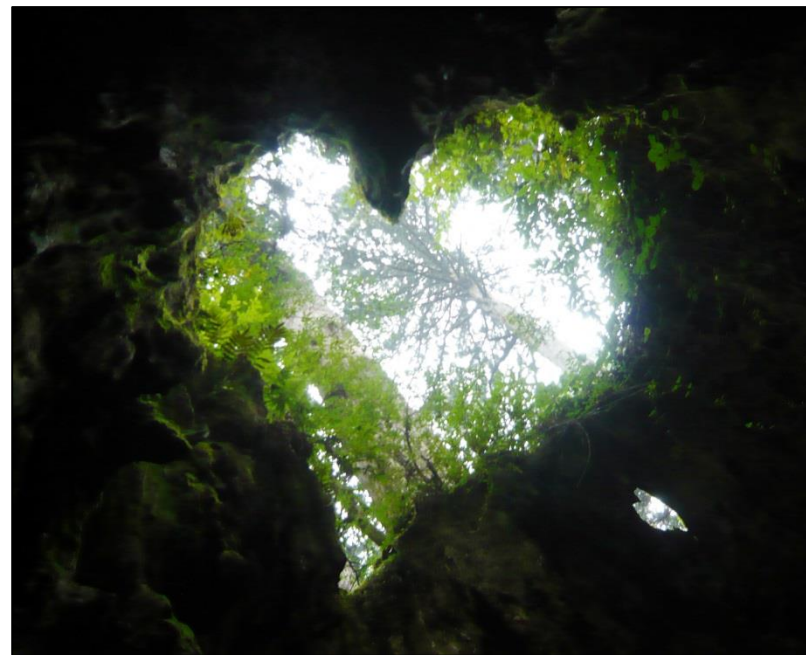


**鹿児島県大隅半島佐多岬
南南西約60Kmの海上に
位置する**

**面積504km²、周囲130km
円形に近い五角形をしている**

**鹿児島県では奄美大島に
次いで2番目、日本全国では
7番目の面積**

世界遺産の島



樹齢数千年の屋久杉をはじめ、豊かな植物群や山岳、溪谷等世界的な評価を受け1993年に世界自然遺産に登録。

永田地区の概要

屋久島の北西に位置する。

人口:476人 261世帯
(平成27年9月時点)

15歳未満	51人(10.7%)
15歳～64歳	210人(44.1%)
65歳以上	215人(45.2%)

ポンカン、タンカン等の果樹栽培
に従事する割合が多い。



永田いなか浜



**2005年 ラムサール条約に登録。
アカウミガメの上陸密度が日本一高い砂浜。
ウミガメの放流も行っています。**

永田地区での生活

- 診療所の後方には九州第2位の高峰永田岳がそびえ、冬には冠雪します。
- 診療所の横に流れる永田川にはたくさんの魚が泳いでいる様子が見られます。



永田岳と永田川

- 永田地区にある公共機関は診療所、小学校、交番、郵便局のみ。(中学校は廃校に。)
- 銀行やスーパーのある宮之浦までは車で30分程度。

永田地区での生活

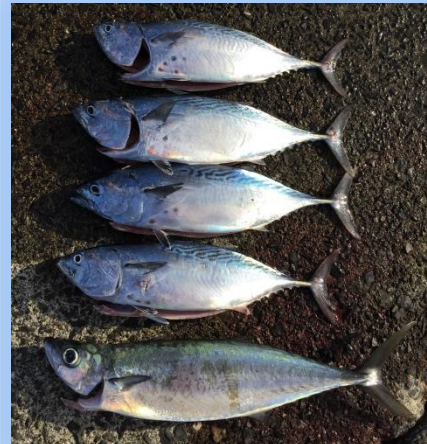
- 医師住宅の庭で細々と家庭菜園を営む。
- 車で5分の堤防で魚釣り。
(キハダマグロを釣ったことも！)
- 冬にはぽんかんを食べきれない程いただく。
- 各行事では区民総出で盛り上がります。



盆踊り大会

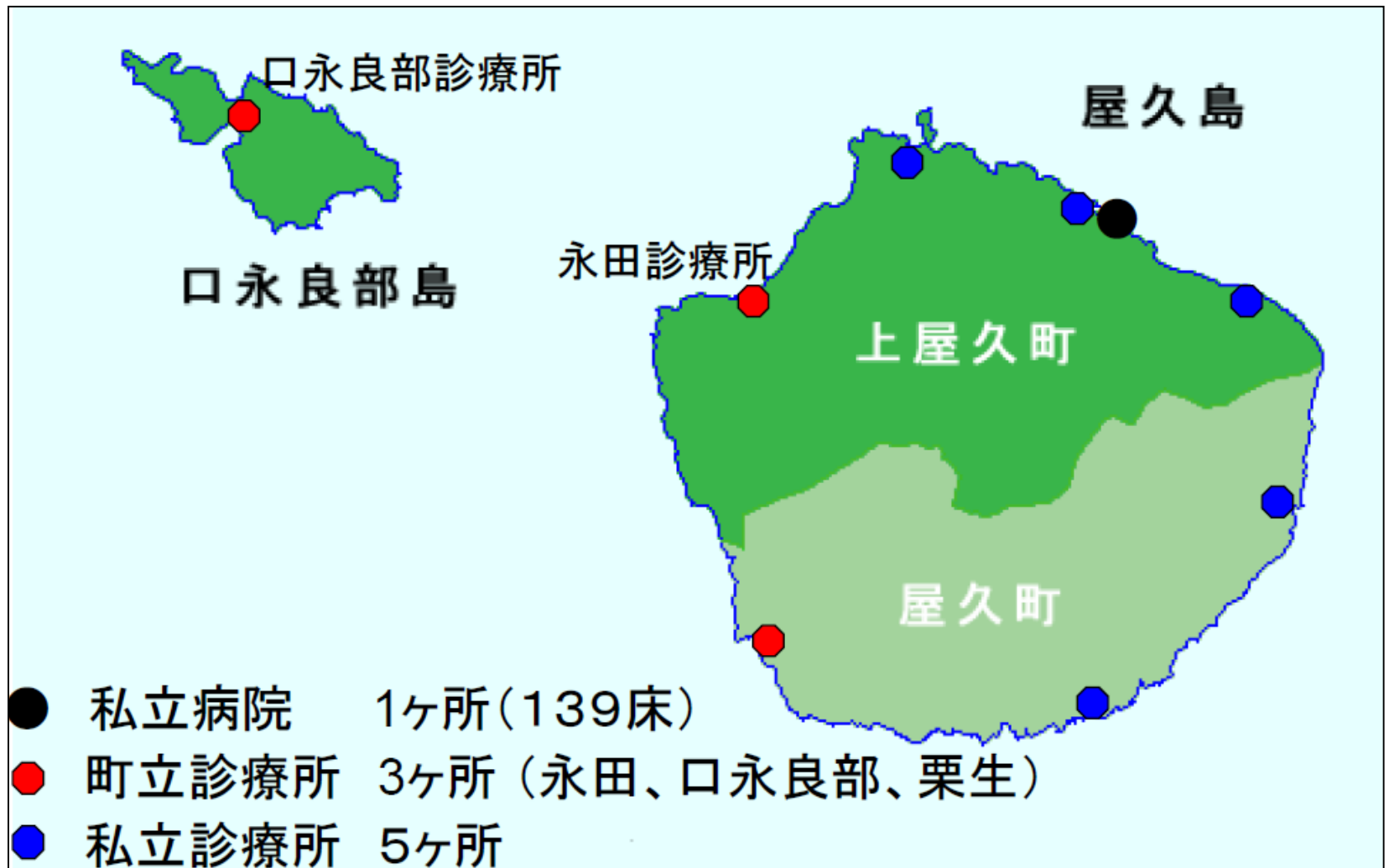


我が家で
採れた
野菜



とある休日の
釣果

屋久島の医療環境



島内各所に医療施設が点在。入院施設は私立病院1か所のみ。

永田へき地出張診療所



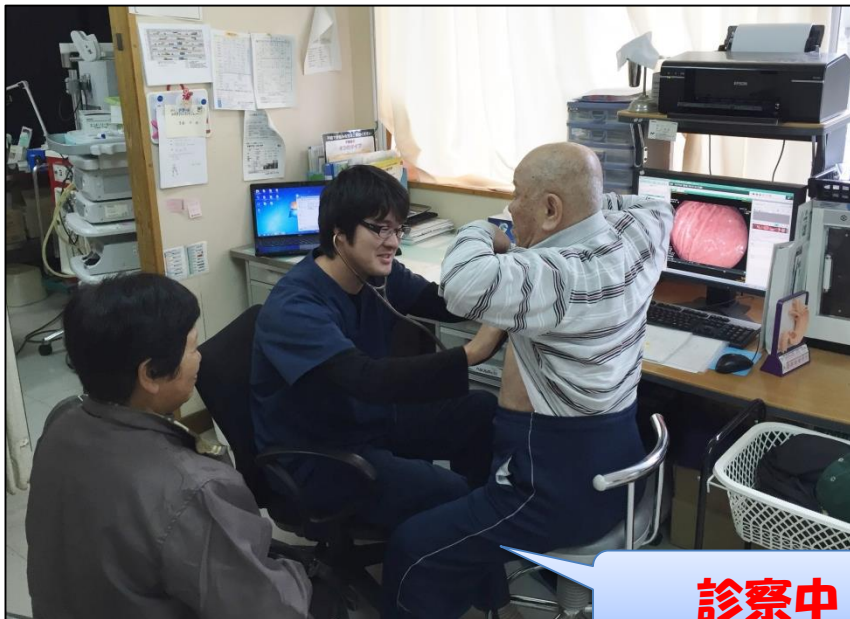
職員 医師1名、看護師3名（2名勤務）、事務2名
無床診療所。医師住宅は隣接。

日常業務
内科を中心とする
プライマリケア。

乳幼児健診。
予防接種事業。
学校医業務。
健康講演。
介護保険認定委員。
等々

その他、鹿児島大学
より皮膚科月2回、
眼科月1回の外来有。

診療所内風景



診察中



検査室



待合室



薬品棚

永田へき地出張診療所

- **1日平均患者数(内科) 22名(平成27年)**
- **往診患者数 4-5名/月**
- **搬送の必要な患者 4-5名/月**

高齢者の感染症が最も多く、次いで外傷、脳血管障害、心疾患、呼吸器疾患と続く。

搬送先の施設までは救急車で約30分。

・診療所内で行える検体検査は末血、検尿、簡易血糖測定のみ。その他は鹿児島市内に外注。

早ければ翌日朝に結果が届く。(パソコンで確認)

永田へき地出張診療所

・ 医療機器

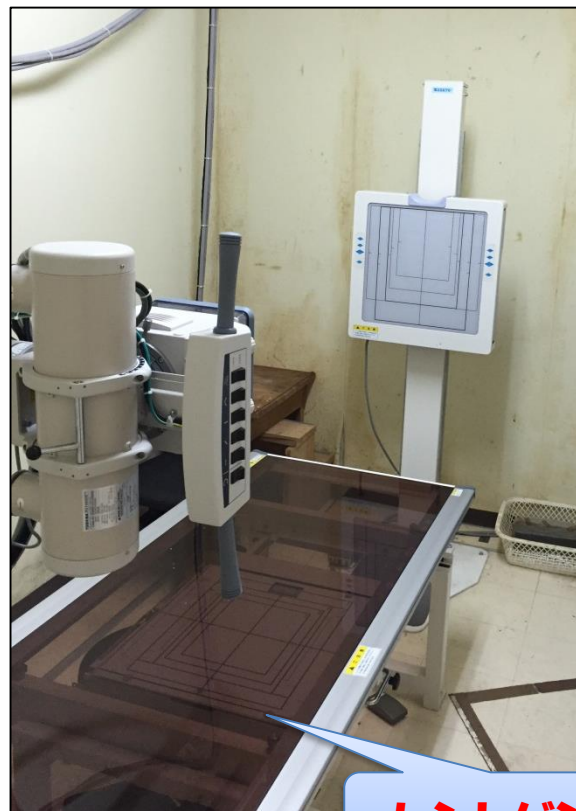
心電図、上部消化管内視鏡、エコー(腹部、心臓、体表)、ABI、血球測定器、顕微鏡、スパイロメータ、スリットランプ、単純X線撮影機(CR、医師が撮影)



スパイロメータ



エコー



レントゲン室

永田へき地出張診療所

＜心がけていること、注意していること＞

- 地区内、島内で医療を完結することを望む患者がほとんど。少ない医療機器を用いて診療所内で行うことの限界を見極めることも大切。必要時には迅速に搬送する。
- 屋久島ならではの患者（外国人を含めた観光客、超高齢者、動物外傷等）が多く、柔軟に対応する。
- 島内の医療関係者との良好な関係を保つことが、スムーズな連携につながり、住民の健康に寄与する。
- 総合的な視点で各患者に対応。（基本的に全科に対応しなければならない。）

口永良部島爆発的噴火



2015年5月29日、口永良部島の新岳が爆発的に噴火しました。全島民への避難指示が発令。住民の団結した行動、屋久島町の迅速な対応により死者は出ませんでした。住民は長期間に及ぶ避難生活を強いられました。2015年末、避難指示の解除に伴い島への復帰が徐々に進んでいますが、元の生活に戻るためにはまだまだ課題は多い状況です。

当診療所前から見た口永良部島の噴火

口永良部島爆発的噴火



屋久島に避難してくる住民を乗せたフェリー



避難所の様子

＜当診療所の対応＞

・町からの要請を受け、爆発当日に避難してくる住民への医療初期対応を行いました。（屋久島に到着するフェリーに乗り込み健康相談。）

※前年度は口永良部島に常駐医が不在であったため、私も漁船に乗って月に3回巡回診療を行っていた経緯があり、住民の顔や通院患者のおおまかな病状は把握していました。

・屋久島での避難生活が落ち着くまでの間、口永良部島診療所の常駐医、町立診療所の医師と手分けして各避難所への訪問、健康相談を実施しました。

COPD(慢性閉塞性肺疾患)検診

平成27年度に新たな試みとして、屋久島町と自治医大呼吸器内科と共同してCOPD検診を行いました。



検診会場

頑張って簡易スパイロメータ
で検査してもらいました。



COPD(慢性閉塞性肺疾患)検診

できるだけ多くの方に受診していただけるよう、町報への文書掲載や講演会の実施、ちらし作成等を行いました。

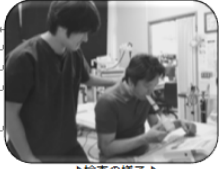
COPDをご存じですか?

永田へき地出張診療所 室嶽 洋一

皆さん、COPD(シーオーピーディー)についてご存じでしょうか。日本語では「慢性閉塞性肺疾患」といい、タバコなどの有害な空気を吸い込むことで肺や気管支に障害を起こす病気で、「肺の生活習慣病」とも言われています。タバコを吸ったことのある方で、風邪でもないのに咳や痰が続く、呼吸をするときにゼイゼイ・ヒューヒューいう、以前に比べて坂道や階段で息切れを強く感じるなどの症状がある方は、このやっかいな病気が隠れている可能性があります。COPDを放っておき、進行すると呼吸がうまくできなくなってしまいます。すると日常生活でも酸素吸入が必要となってしまう場合があります。また、鹿児島県のCOPDによる死亡率は全国ワースト第3位です。COPDは早い段階で気づき適切な治療をすることで病気の進行を遅らせることができます。

COPDは全国に500万人以上の患者さんがいると推定されますが、発見が遅れたため、病院で治療している患者さんは22万人と少ない現状です。例年7月に行われている肺がん・結核レントゲン検診において、今年度は一緒にCOPD検診を行うことになりました。いくつかの質問に答えていただき、病気が怪しまれる方には簡単な呼吸機能検査を追加します。

この機会にぜひ、COPD検診を受けましょう!!



検査の様子。

ちらし

町報に掲載

慢性閉塞性肺疾患 COPD
～屋久島町からのお知らせ～

COPD(シーオーピーディー)とは?

COPDは、タバコなどの有害な空気を吸い込むことで肺や気管支に障害を起こす病気で、「肺の生活習慣病」とも呼ばれています。

COPDの症状は?

- 風邪でもないのに咳や痰がつづく
- 呼吸をするとき、ゼイゼイしたりヒューヒューいう
- 以前と比べ、坂道や階段で息切れを感じる

放っておくと?

進行とともに呼吸機能が低下し、うまく呼吸ができなくなってしまいます。すると日常生活でも酸素吸入が必要となってしまう場合があります。また、鹿児島県のCOPDによる死亡率(人口10万人あたりの死亡者数)は全国ワースト第3位です。さらに、鹿児島県民の主な死因の第9位(平成25年)となっています。

早期発見・早期治療が重要です!

全国に500万人以上の患者さんがいると推定されますが、発見が遅れたため、病院で治療している患者さんは22万人と少ない現状です。COPDは早い段階で気づき適切な治療をすることで、病気の進行を遅らせることができます。

COPD検診を受けて、重症化するその前に発見しましょう!!

まずは今すぐ検診!



各医療機関の先生方、スタッフの方々にもご協力いただき、町民1600人以上の方にご参加いただきました。結果を集計して、住民に報告、還元する予定です。

スタッフ集合写真

屋久島町
永田へき地出張診療所

実習生も歓迎しています

